

# とびら 北の vol.119 令和元年11月



## 特集

サッポロ・ダンスポート・プロジェクト

社会を変えていくダンス、  
その発信と普及をめざして

この人に注目

富田 美穂

アートの子カラを考える

赤平アートプロジェクト

街歩きアート

羊のいる風景に導かれた人たちが、  
地域で紡ぎ出す新たな物語

[美深町]

エッセイ

神田 山陽

表紙作家の紹介

椎名 澄子



# サッポロ・ダンスボート・プロジェクト 社会を変えていくダンス、 その発信と普及をめざして

コンタクト・インプロビゼーションは、身体を接触させて相手の重さや力の流れを感じながら即興的に動く対話型のダンス。サッポロ・ダンスボート・プロジェクトは、札幌でこのダンスを試みるダンスユニット・micelle(ミセル)による、若手舞踊家の育成を目的とした取り組みです。第2回となる2019年は、昨年引き続き、京都を拠点に活動するダンスカンパニー Monochrome Circus(モノクロームサーカス)との共同制作を行いました。今回の取り組みについて、ミセル代表の櫻井ヒロさんと、モノクロームサーカス代表の坂本公成さんにお話を伺いました。



コンタクト・インプロビゼーション(以下、コンタクト)との出会いと、サッポロ・ダンスボート・プロジェクト(以下、プロジェクト)をスタートするに至った経緯をお聞かせください。

櫻井 僕は高校を卒業後に世界を旅し、フランスのモンペリエ国際振付センターで、コンテンポラリーダンスのテクニクの一つであるコンタクトに出会いました。けれど当時僕が踊っていたのは、ヨーロッパで人気だった舞踏です。

コンタクトに積極的に関心を持つようになったのは2009年に帰国してからですね。ヨーロッパでは初対面でも頬にキスをしたりしますが、日本では身体接触がとて少ない。コンタクトは、他者とのコミュニケーションが希薄な

## lemming

札幌の若手ダンサーや俳優、オーディション選抜ダンサーら計11名での共同制作。他者との共生を余儀なくされる人間の葛藤を、異なるバックグラウンドを持ったさまざまな身体によって表現。

### 【サッポロ・ダンスボート・プロジェクト2019】

#### ●上演作品

#### 「μ」

演出：micelle  
出演：櫻井ヒロ、河野千晶、大森弥子、小野洋子、谷諳翔太  
音楽：chiharu\_mk  
照明：高橋正和

#### 「Endless」

演出：坂本公成  
出演：坂本公成+森裕子  
音楽：山中透  
照明：坂本公成+渡川知彦

#### 「lemming」

振付・構成：坂本公成  
振付アシスタント：森裕子  
出演：牛島有佳子、大森弥子、菅野朱音、三瓶竜大、谷諳翔太、成田愛花、浜田純平、原鞠蔵、平野琴音、櫻井ヒロ、河野千晶

日時：2019年9月15日・16日  
会場：扇谷記念スタジオ シアターZOO

助成：公益財団法人北海道文化財団

SAPPORO  
DANCE BOAT  
PROJECT  
2019

現代の社会に役立つのではないかと考えました。

2014年にミセルを結成し、年1〜2回、ウッパタール舞踊団のジャン・サスポータスさんなどさまざまなダンサーや演奏家をゲストに招いて、即興パフォーマンスを実施してきました。

一方で、コミュニティダンスやワークショップなどでコンタクトの可能性を探って来ましたが、きちんと作品を創ったことはありませんでした。「コンタクト・インプロビゼーションの手法を用いてきちんとした振付作品の制作に取り組みたい」という思いから、先駆的な活動をされているモノクロームサーカスさんにお声がけし、プロジェクトを立ち上げました。

坂本 モノクロームサーカスは京都を拠点に1996年頃からダンスユニットとして活動しています。同じ年に、国際的に活躍するコンテンポラリーダンスの振付家・ダンサーを招聘して学びと出会うの場を提供する「京都国際ダンスワークショップフェスティバル」をスタートしました。1998年

のない演劇のようにも見え、ダンサーだけでなく俳優やダンス未経験者も参加できる、ダイバーシティな作品にできるのではと思えました。

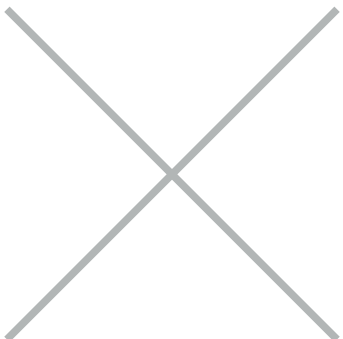
坂本 『Lemming』は2006年から取り組んで、各地でいろんな人と上演しながらバージョンアップさせてきた20分くらいの作品です。今回の滞在制作は2週間なので、ある程度柔軟な身体を持っている人であれば十分踊ることができると思い提案しました。

櫻井 2週間あると、初めて踊る人でも身体が変化していく、そのプロセスが見えることが喜びでした。また、制作が進むに従ってダンサーと俳優の壁がなくなり、やっとな共同制作に入った感じがありました。来年はさらに踏み込んで、ここでしか創れないものを目指したいと思います。

坂本 そのためにも、次は1時間くらいの作品が創れるといいですね。

### 櫻井 ヒロ(さくらい ひろ)

2014年に河野千晶とユニットmicelleを結成。コミュニティダンスやコンタクト・インプロビゼーションを通してさまざまな特徴を持つ身体と向き合い、他者との協調や主張のできる身体性を模索。福祉施設等でのワークショップも実施。フランス在住時(2006-2008)から独学でダンスワークショップを始める。子どもから高齢者まで参加できる「教文コミュニティダンス部」では、ファシリテーターとして参加者の身体が持つドラマに着目した作品創作ワークショップ等を行う。2013年にはダンス部員達と共に創った「13番目の月」を札幌コンカリーニョでJCDN「踊りに行くぜ!!!」vol.3にて上演。2014年には京都芸術センター主催dance4allにて、全国公募作品の一つとして「あしあと」を再演した。2016年札幌市教育文化会館主催 高校生演劇ワークショップ+発表公演「転校生」演出/振付。<https://micelle.jimdo.com/>



### 坂本 公成(さかもと こうせい)

演出・振付家、ダンサー。京都を拠点に活躍するコンテンポラリーダンスカンパニーMonochrome Circus主宰。身体と身体の対話をテーマに、コンタクト・インプロビゼーションなどへのリサーチを深めている。リヨンビエンナーレ(2000)やフェスティバルドートニス(2009)などのヨーロッパの主要フェスの他、国内外で作品が紹介されている。作品に別府現代芸術フェスティバルでのオリエンテering型パフォーマンス『ダンサーを探せ!!』(2009)、grafの服部滋樹との『直島劇場』(瀬戸内国際芸術祭 2010)、Full Moon Dance Festival(フィンランド)での日×フィン共同製作『Ash is falling(灰が降る)』(2012)などがある。平成19年度京都市芸術新人賞受賞。嵯峨美術大学非常勤講師。追手門学院大学客員教授。「京都国際ダンスワークショップフェスティバル」のプログラム・ディレクター。<http://monochromeircus.com/>



頃から、フェスの講師たちから学んだコンタクトの手法や技法をメンバーの森裕子と一緒に体系化して、作品を創って、そこから自分たちも伝える、フェスティバルを通して紹介する、という活動を続けてきました。フェスは24年続き、今は京都芸術センターとの共催で全国から200名以上が参加するイベントとなっています。札幌での滞在制作は2018年が初めてです。実質3日間の滞在制作でしたが、若い才能がうごめいている印象を持ちました。同時に演劇が盛んだということに驚きました。

今年のプロジェクトでは、ミセルが演出した作品『μ.』、モノクロームサーカスの作品『Endless』、モノクロームサーカスのレパトリリーをオーディション選抜ダンサーや俳優と共同制作した『Lemming』を上演しました。

櫻井 昨年は顔合わせと考え、本格的な共同制作に向けて次は何をやるかを相談し、『Lemming』の映像を見せてもらいました。言葉

櫻井 フェスティバルとしても形を作っていきたい。海外のアーティストに参加してもらい、厚みを加えたいですね。ダンサーには若いときにできるだけさまざまなものに触れてほしいと思っています。また、札幌のダンサーが経済的に自立しながら活動していくことについても考えていきたいです。

坂本 京都市には、プロジェクトではなく芸術家個人に対し年間300万円の助成をする制度があります。行政と手を携えて粘り強く環境を作っていくことが大事かと思っています。

コンタクトについては、櫻井さんの言う通りコミュニケーションのあり方を変えていく可能性を多分に含んでいる。保育・教育の場に関わり、広く認知される活動を継続していくことが大切だと考えています。

北海道文化財団でも引き続き、若手ダンサーの育成や社会を変えていく可能性を持つ文化活動を支援していきたいと思っています。本日はありがとうございました。

## 赤平アートプロジェクト

a r t

### アートで「炭鉱の記憶」を掘り起こし、再生する。



2019年5月、「炭鉄港」が日本遺産に認定されました。石炭の大産地だった空知地方の炭鉱と、石炭を運んだ鉄道および石炭をエネルギーとしていた室蘭の製鉄、そして石炭を道外へ積み出していた小樽港という、日本の近代を支えた産業のストーリーが評価されての認定です。

この評価に貢献したのが、産炭地の人々とNPO法人「炭鉱の記憶推進事業団」が手を携えて取り組んできた「そらち炭鉱の記憶アートプロジェクト」の活動。「炭鉱の記憶を掘り起こす」をテーマに、炭鉱遺産を会場としたプロジェクトを企画、作品の制作・展示を行ってきました。

赤平市の住友炭鉱坑口浴場の「赤平アートプロジェクト」(2004年)を皮切りに、三笠市の北炭幌内布引炭鉱跡で「布引ア

ートプロジェクト」(2009年)、夕張市の北炭清水沢火力発電所で「夕張清水沢アートプロジェクト」(2011年)、三笠市の住友炭別炭石炭積み出しホッパーで「奔別アートプロジェクト」(2012年)などを開催。2017年からは毎年赤平市で開催しています。今回で11回目となる「赤平アートプロジェクト2019」では、立坑の向かい側にある炭鉱マンの大浴場の遺構に、地域でリサーチした炭鉱の記憶を題材とした18作品を展示しました。

2004年から継続してディレクターを務めてきた美術家の上遠野敏さんは、「アートの役割は、炭鉱の歴史や場を映し出す鏡であること」と言います。「アートで記憶を表現すると言っても、その6割は炭鉱遺産そのものが語っています。作家の表現は残りの4割。遺産だけでは伝えきれない価値や意味を見出し、アートでアクションを起こし、観る人とのあいだにコミュニケーションを生み出すことが目的です。作品は、炭鉱の歴史や地域を知ることにつなげていくのです」。

展示には元炭鉱マンも多く足を運んでおり、そうした動きもアートプロジェクトが目指したことのひと

赤平市炭鉱遺産ガイダンス施設  
赤平市字赤平485  
問い合わせ：0125-7416505  
開館時間：9時30分～17時(入館は16時30分まで)  
休館日：月曜・火曜(祝日の場合はその翌日)  
入館料：無料(立坑などのガイド付き見学は有料)

つ。また、プロジェクトは上遠野さんが教鞭をとる札幌市立大学デザイン学部の学生たちとの共同で企画・制作・運営を行っており、学生にとっては地域交流の中で行う作品制作を実践的に学ぶ場となっています。

15年続いた上遠野さんによるアートプロジェクトは、大学教員の定年に伴い今年度で終了します。炭鉱遺産を舞台とするアート活動が、今後別のかたちで継続されることが期待されます。



作品/上から順に  
極楽の六地藏：上遠野敏(制作協力：吉田尚哉、坂元あかり、中野智文、齋藤来穂、天野日和、米代花恋、藤田咲希、長岡南風、八木菜摘)  
住友赤平炭鉱ネオンと住友の灯り：上遠野敏(制作協力：吉田尚哉、佐々木のぞみ、藤田咲希、三上晴可)  
浴場のロッカーは吊り下げかご：上遠野敏(制作協力：吉田尚哉、米代花恋、天野日和、長岡南風、宮崎義明、樋口涼佳子)

# 富田 美穂

Tomita Miho

牛の木版画・絵画制作

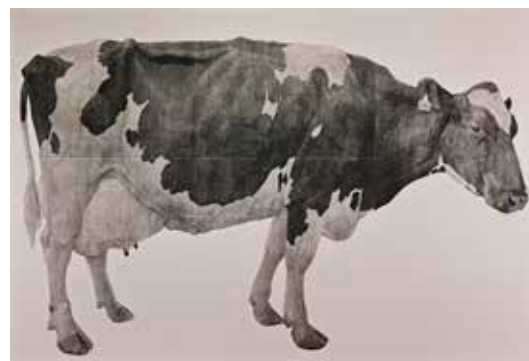
この人に注目!



○プロフィール  
1979年、東京生まれ。2004年、武蔵野美術大学造形学部油絵学科版画コース卒業。2008年から佐伯農場荒川版画美術館(中標津町)に夏季常設展示。近年は2018年「牛の足音—富田美穂 牛の木版画展—」神田日勝記念美術館(鹿追町)、2019年「富田美穂展—反芻のかたち—」北海道銀行らいらっく・ぎやらりい(札幌市)で個展を開催

受賞歴  
2015年 第10回TAGBOAT AWARD審査員特別賞 小山登美夫賞  
2017年 第20回岡本太郎現代芸術賞入選  
2019年 第28回道銀芸術文化奨励賞

2020年 網走市立美術館にて個展を開催予定  
<https://miho-tomita.jimdo.com>



2018年「701全身図」

生きているかのように、こちらをじっと見つめる牛たち。毛並みの感触や乳房のぬくもりまで伝わってくるような、リアルな表現が光ります。しかもほぼ等身大で迫力満点。近づいてみると、絵の具などで描かれたのではなく、木版画だとわかってさらに驚きます。

富田美穂さんはほぼ牛だけを題材に作品を制作する、ユニークな作家です。東京での学生時代はまったく関心なかったそうですが、夏休みのアルバイト先に選んだ道東の牧場で1頭の牛と出会ったことが、作家としての道を決定づけました。「620という番号の牛が、人懐っこくて愛嬌があって、本当にかわかったんです。仕事が終わったあと牛舎へ行ってスケッチしていました」。それまで油絵で自分の表現したいものを模索していた富田さんは、牛の圧倒的な存在感に惹かれ、大学へ戻ってから興味を持った版画コースを専攻。牛を題材に作品を創り始めます。卒業後は道東へ移住し、現在は小清水町の牧場で働きながら創作活動を行っています。



2019年の新作「1177正面図」

絵画も制作していますが、リアリティが際立つのは木版画です。「細かい毛の流れなど、三角刀で彫るからこそできる表現かもしれません」。そして、木版画は技法に制限がある分、絵画とはまた違った微妙な表現ができると話してくれました。近年は2018年に神田日勝記念美術館(鹿追町)で個展を開催し、2019年には第28回道銀芸術文化奨励賞を受賞。札幌大通の北海道銀行らいらっく・ぎやらりいで展示が行われました。

富田さんの作品では、いわゆる牧場風景はほとんど描かれませんが、ひとつの空間に牛だけがいることで「牛の存在そのもの」が浮かび上がってきます。「かわいいというだけではなく、誰の暮らしとも無関係ではない、牛という存在を表現することに意味があると思っています」。作品を前にすると、普段の暮らしではあまり意識することのない、牛という生き物と自分とのつながりを改めて考えさせられます。

「牛が創作の源泉」と言い切る富田さんにとって、創作と酪農はどちらもなくてはならないもの。これからも、牛とともに自分の道を歩み続けます。

物語のある書齋のようなホテル

TOURIST HOME & LIBRARY 青い星通信社



ラウンジには村上春樹をはじめ星野さんの所蔵する書籍が。客室は3室のみ

古い石積みの建物を改装しオープンした小さなホテル。窓から牧草地を眺めながら、本に囲まれた空間に身を置くと、日常とは違う時間が流れているのを感じます。雑誌の元編集長で作家でもあるオーナーの星野智之さんは、村上春樹作品に精通し論文も発表するほど。電波塔を管理する警察官の元官舎だった建物に残る、地域の歴史や物語に惹かれ、開業に至ったと話します。今後はラウンジでのコンサートやギャラリー、冬の閑散期を利用した創作の場の提供など、クリエイターが集う場としての活用も構想中です。

●中川郡美深町字穂内108  
☎080-9002-7724 宿泊料金：(1泊2食付) 15,000円～  
http://aoihoshi.co.jp

地域の記憶と道北アートの拠点 おんねない  
アートヴィレッジ恩根内



2016年、地元小学生とアーティストがライブペインティングで制作した壁画作品

まちの北部・恩根内地区に移住したアーティストの工藤貢さんが、旧小学校校舎を4年かけて改装。展示室や宿泊して制作できるアトリエを備えた施設を作りました。旭川以北のアートを発信する活動「道北アート」の拠点となり、ギャラリーがほとんどない道北で、作品発表の場とアートに触れる機会を提供しています。また、併設のカフェでは木で制作した昭和25年当時の住宅地図を展示するなど、地域の記憶を残す取り組みにも力を入れています。

※2020年5月1日～10月30日「描かれたアイヌ」展開催  
●中川郡美深町字恩根内25 ☎01656-9-6005  
開館時間：10:00～17:00 定休日：火～木 観覧無料  
https://ja-jp.facebook.com/artvillage.onnenai (フェイスブック)  
http://www.mmjp.or.jp/niseko/douhoku/ (道北アート)

## 羊のいる風景に導かれた人たちが、 地域で紡ぎ出す新たな物語

塩川に沿って広がる道北のまち・美深町は、林業を中心に発展し、現在は農業や酪農が盛んです。かつて鉄道的美幸(びこう)線が延びていた仁宇布(にうぶ)地区は、村上春樹の小説『羊をめぐる冒険』に登場する架空のまち・十二滝町のモデルといわれ、羊のいる農場など、ハルクストと呼ばれるファンのあいだでは観光地としても注目を集めています。



## まちの文化とハルクストの中心地 松山農場

白樺林にたたずむコテージと、目の前の放牧地に憩う羊たち。美深の中心部から20キロほど東へ入ったところにあたる仁宇布地区に、羊飼いの柳生佳樹さんの「松山農場」があります。羊肉のほか全国的にも珍しい羊乳を生産していることで知られますが、もうひとつ、農場を有名にしたのが村上春樹の小説『羊をめぐる冒険』です。ある特殊な羊を探して主人公がたどり着く場所に似ているとされ、物語そのままのような風景を求めて、ハルクストが全国および世界中から訪れるようになりました。

2012年から、放牧地を会場に「草原朗読会」を開催。俳優による作品の朗読のほか、ジャズのライブなどが行われ、村上春樹の作品世界に浸ることが出来ます。第8回を迎えた今年からは、オープンしたばかり



東京の熱心なファンの企画で始まった草原朗読会は形を変えて継続予定

の「美深白樺ブルワリー(BSB)」に会場を移して開催されています。

最北のビール醸造所であるBSBも、実は柳生さんがオーナー。以前から敷地に自生する白樺を活用して白樺樹液の飲料水などを作っており、BSBでは白樺樹液入りのビールを醸造しています。白樺樹皮も編みかごなど北欧クラフトの材料となるため、柳生さんが剥ぎ取りを行い、おもに道外へ送られています。また「樹液や樹皮だけでなく、白樺を余すことなく使いたい」と、別のプロジェクトも進行中です。

柳生さんは、羊のいる風景やあまり利用されてこなかった白樺を地域の資源とし、美深そして仁宇布に新たな価値を生み出してきました。過疎化が進む道北にあって、松山農場を中心にこの地に惹きつけられた人々が集い、全国的に注目される場所へと変化しつつあります。



クラフト用の樹皮を剥ぎ取った白樺が並ぶ

●中川郡美深町字仁宇布660 ☎01656-2-3939 http://maisuyama-farm.com.

B I F U K A

Pick up!  
美深町

### せせいそうどう 粗清草堂



羊毛作家・逸見史佳(へんみりか)さんのアトリエ兼ギャラリー。手作業で布地と羊毛を一体化させた布フェルトの服はふわりと軽やか。自ら羊を飼い、手仕事の豊かさを実践する暮らしから生まれた、ぬくもりある一着と出会えます。

※12月13～15日「もみの木SO」(札幌)にて展示会開催  
●中川郡美深町字辺溪285-5  
☎01656-9-1936  
ギャラリー営業日:6～10月の日・月  
(営業日以外での見学希望は要連絡)  
営業時間:10:00～16:00  
soseisoudou@gmail.com  
https://www.rikahemmi.jp/

### 村上春樹文庫(JR美深駅)



列車の待ち時間に村上春樹の小説を自由に読める場所として、JR美深駅構内に開設。作品世界をイメージさせる写真が展示された手作りの空間は、訪れるハルクストと地元の人たちとの交流の場にもなっています。

●中川郡美深町字開運町 JR美深駅1階  
利用時間:9:00～16:30  
☎01656-9-2470 (美深町観光協会)

### 美深白樺ブルワリー (BSB)



今年6月、レンガ造りの元農業用倉庫の建物にビールの醸造所がオープン。9月には町特産の白樺樹液を使用した4種類のビールが誕生しました。併設のレストランで美深産の野菜や羊肉のメニューとともに味わえます。

●中川郡美深町字大通北4丁目9  
☎01656-8-7123  
営業時間:17:00～22:00  
定休日:日・月(祝日の場合は月・火)  
https://www.facebook.com/bifukacraftbeer/

センセーと呼ばれていた。筑波大学付属小学校で。五年生の一クラスと、月に四時間のワークショップ。年度末に父兄の前で三分間の登壇発表が終着点。一人一人と日々文通で台本を練った。『自分の言葉』を見つける鍵になればと、センセーは愚かに奮闘した。

一年後。発表会で泣けてきた。『自分の言葉』を見つけたのは私だった。一緒に呑める年になつたらしみじみと償いたい。受験を控え、多忙な子の時間を奪って成した発見は無駄には出来ない。多くの人と喜びを共にしたい。今なら出来る気がするのだ。

しかしセンセーは私ではない。子供達だ。対等に話してくれる子供の言葉が良きコーチであり最上のヒントである。そのために必要なのは、まず訥々と話をして許される場所だ。出来れば血の通った空間が望ましい。会議室よりお寺の本堂といったところか。実はここ数年、子供のための施設を見



て回っていた。才能も無いのに長年子供番組で使ってもらっている、罪滅ぼしがしたいのだ。この時代にこの地球でイケシャーシャーと糊口しているお詫びとも云えるだろう。ひたすら頭の下がる釜ヶ崎の非営利法人から、今回で辞めるといふ千葉の子供食堂まで様々。伺つて歩くうちに、私にも出来そうな事が判りかけてきた。

今、子供の施設と言葉のワークショップを融合させたモノを、どうすれば講師が運営出来るか探っている。また、便宜上使用している「子供の施設」「ワークショップ」という言葉も気に入らない。まずはその辺りから擦り合わせなければ。さて『自分の言葉』とは何程の事やらん、と思われた方。ご参加を待つ。



神田山陽 (かんださんよう) 講師

北海道生まれ。自称いかものぐい。物々交換講談を模索中。Eテレ「にほんごであそぼ」等出演中

※次号のエッセイも神田山陽さんが担当します

表紙作家の紹介



風の塔

椎名 澄子 彫刻家 Sumiko Shiina

1972 札幌市生まれ
1997 東京藝術大学美術学部彫刻科卒業
1999 東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了
現在 旭川大学短期大学部 教授

- [個展]
1998 札幌時計台ギャラリー (札幌)
東京藝術大学構内玄関ギャラリー (東京)
2001 ギャラリーミヤシタ (札幌)
2002 ギャラリーミヤシタ (札幌)
2003 ギャラリーミヤシタ (札幌)
2004 リアス・アーク美術館 (宮城)
ギャラリーミヤシタ (札幌)
きのとやCafe (札幌)
2005 ギャラリーミヤシタ (札幌)
2006 STV北2条ビル・エントランス・アート (札幌)
ギャラリーミヤシタ (札幌)
2007 ギャラリーミヤシタ (札幌)
2008 茶廊法邑 (札幌)
2011 札幌時計台ギャラリー (札幌)
2014 コンチネンタルギャラリー (札幌)
2015 札幌芸術の森美術館中庭 (札幌)
2016 ギャラリープルブル (旭川)
2017 コンチネンタルギャラリー (札幌)
2018 ギャラリーシーズ (旭川)
[グループ展]
1999 Completed Works-14titles (東京藝術大学構内/東京)
2003 13人の作家による小品展 (ギャラリーミヤシタ/札幌)
鹿追ウィンドウアート展 (北海道河東郡)
北海道立体表現展 (北海道立近代美術館/札幌)
2004 15人の作家による小品展 (ギャラリーミヤシタ/札幌)
~2017毎年開催
北の彫刻展2004—新しい具象 (札幌彫刻美術館/札幌)
2007 札幌大谷学園開校百周年記念美術展 (札幌市民ギャラリー/札幌)
札幌美術展—街の思い出・私の記憶 (札幌市民ギャラリー/札幌)
Iron Tribe Exhibit 2007 (プリーズホールギャラリー/アメリカ)
2008 奥の若手道展—東北・北海道の明日 (リアス・アーク美術館⇒函館美術館⇒北網圏北見文化センター⇒鶴岡アートフォーラム)
Iron Tribe Exhibit (ニューメキシコ⇒コロラド⇒カンザス/アメリカ)
イタリア式蝋型鑄造の試み展 (Dala Space/小樽)
2009 Iron Tribe Exhibit 2009 (プリーズホールギャラリー/アメリカ)
2010 明日への手美術展 (北方圏学術情報センター・ポルト/札幌)
北の彫刻展2010—次代をになう女性たち— (札幌彫刻美術館/札幌)
2011 Project Ark vol.1 東日本大震災支援チャリティー展 (ギャラリー戸村/東京)
具象彫刻30人展—北の作家たち— (札幌彫刻美術館/札幌)
抽象・具象彫刻60人展—北の作家たち— (札幌彫刻美術館/札幌)
2012 三人展 (皆川嘉博・佐藤正和重孝・椎名澄子)
—現代彫刻家たちの物語— (ギャラリー杉/秋田)
2013 音色を奏でるアート展 (ギャラリー杉/秋田)
2014 セブン・ストーリーズ (札幌彫刻美術館/札幌)
2015 赤レンガ美術館 椎名澄子・藤田尚宏展 (北海道庁赤レンガ庁舎/札幌)
2016 女流作家展 (ギャラリー杉/秋田)
麗水国際アートフェスティバル (韓国)
彫体刻感展 (藤屋画廊/東京)
2017 北海道—全羅南道 (韓国) 国際美術交流展 (ギャラリーシーズ/旭川)
彫体刻感展 (藤屋画廊/東京)
2018 近美コレクション「みんなのアート1, 2, 3」(北海道立近代美術館)
彫体刻感展 (藤屋画廊/東京)
2019 彫体刻感展 in 3331 ART FAIR (3331 Arts Chiyoda/東京)
彫体刻感展 (藤屋画廊/東京)



風の子



うさぎの風

## 財団事業インフォメーション (2019年12月～2020年3月)

## アートカフェ開催事業

## ● さっぽろ大通デザイン・アートスクールvol.3

講師：ナガオカケンメイ  
(デザイン活動家・D&DEPARTMENTディレクター)  
日 時：2019年12月26日(木) 19:00～20:10  
会 場：ギャラリー大通美術館(大五ビルディング1階)  
参加料：1,000円  
問い合わせ：北海道文化財団 ☎011-272-0501

## アートシアター鑑賞事業

## ● 八代亜紀スペシャルアコースティックバージョン

岩内公演  
日 時：2020年2月14日(金) 18:00開場 18:30開演  
会 場：岩内地方文化センター  
入場料：4,000円  
問い合わせ：岩内町教育委員会 ☎0135-67-7099

北広島公演  
日 時：2020年2月15日(土) 17:30開場 18:00開演  
会 場：北広島市芸術文化ホール  
入場料：5,000円  
問い合わせ：北広島市芸術文化ホール運営委員会  
☎011-372-7667

新冠公演  
日 時：2020年2月16日(日) 14:30開場 15:00開演  
会 場：新冠町レ・コード館  
入場料：3,500円  
問い合わせ：NPO法人レ・コード館自主企画委員会  
☎0146-45-7833

北斗公演  
日 時：2020年2月23日(日) 13:30開場 14:00開演  
会 場：北斗市総合文化センター  
入場料：6,000円  
問い合わせ：北斗市かなで～る協会 ☎0138-74-2000

滝川公演  
日 時：2020年2月25日(火) 18:30開場 19:00開演  
会 場：滝川文化センター  
入場料：4,500円  
問い合わせ：NPO法人空知文化工房 ☎0125-23-1281

小平公演  
日 時：令和2年2月26日(水) 18:30開場 19:00開演  
会 場：小平町文化交流センター  
入場料：3,000円  
問い合わせ：小平町文化交流センターサポーターズクラブ  
☎0164-56-9500

稚内公演  
日 時：令和2年2月28日(金) 18:15開場 19:00開演  
会 場：稚内総合文化センター  
入場料：6,000円  
問い合わせ：稚内総合文化センター ☎0162-22-2727

## ● 演劇公演「男の純情」

苫前公演  
日 時：2020年2月6日(木) 18:30開場 19:00開演  
会 場：苫前町公民館  
入場料：3,000円  
問い合わせ：とままえ舞台鑑賞友の会 ☎0164-65-4076

## 長万部公演

日 時：2020年2月13日(木) 18:00開場 18:30開演  
会 場：長万部町学習文化センター  
入場料：3,000円  
問い合わせ：長万部町芸術鑑賞実行委員会 ☎01377-2-2748

## まちの文化創造事業

## ● 開館25周年 先生と子どもの演劇製作

期 日：2019年12月7日(土)、2020年1月11日(土)  
会 場：あさひサンライズホール  
問い合わせ：あさひサンライズホール ☎0165-28-3146

## ● 名寄歴史市民劇「スターゲイザー」

日 時：2019年12月15日(日) 15:00開演  
会 場：名寄市民文化センター EN-RAYホール  
入場料：前売1,000円 当日1,200円 (高校生以下要整理券)  
問い合わせ：なよろ舞台芸術劇場実行委員会  
(名寄市教育部 生涯学習課) ☎01654-2-2218

## ● 千歳市民ミュージカル開催事業「あやの見た空」

日 時：2020年1月18日(土) 2回公演 13:00開演/18:00開演  
会 場：北ガス文化ホール 中ホール  
入場料：大人(高校生以上)1,000円 子ども500円  
問い合わせ：千歳市民ミュージカル実行委員会  
(特定非営利活動法人千歳メセナ協会内)  
☎0123-27-1756 又は  
090-9431-0900 (実行委員会事務局長 沼田)

● 旭川歴史市民劇「旭川青春グラフィティ ザ・ゴールデンエイジ」  
ワークショップ&プレ公演

日 時：2020年2月15日(土) 18:30開演  
2月16日(日) 13:30開演  
会 場：旭川市民文化会館 小ホール  
入場料：500円  
問い合わせ：旭川歴史市民劇実行委員会  
☎080-7002-9251 (実行委員会 中村) 又は  
0166-23-2801 (まちなかぶんか小屋)

## ● Sapporo Dance Collective

日 時：2020年2月28日(金) 20:00開演  
2月29日(土) 15:00開演  
3月 1日(日) 15:00開演  
会 場：生活支援型文化施設コンカリーニョ  
入場料：前売 一般3,000円 会員2,500円 大学生等1,500円  
高校生以下500円  
当日 一般3,500円  
問い合わせ：生活支援型文化施設コンカリーニョ  
☎011-615-4859

## ● 鼓動する日本画 CONNECT-MOVE

〈網走〉  
会 期：2019年12月22日(日)～2020年2月11日(火・祝)  
会 場：網走市立美術館  
観覧料：一般(高校生以上)200円 小中学生100円

## 〈倶知安〉

会 期：2020年2月16日(日)～3月31日(火)  
会 場：小川原脩記念美術館  
観覧料：一般500円

問い合わせ：鼓動する日本画展実行委員会(朝地)  
☎011-531-3510  
網走市立美術館、小川原脩記念美術館